

長野県長野養護学校高等部分教室の取組について

国立特別支援教育総合研究所

令和6年度特別研究員 伊藤 千鶴

I はじめに

生徒会活動や学級活動、学校行事などの活動は、文部科学省の定める学習指導要領の中の「特別活動」に位置付けられており、その目標は、『「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。』とされている。

本報告では、生徒が相手意識を持ちながら主体的に参加する活動を行っている長野県長野養護学校（以下「長野養護学校」という）高等部分教室の取組について紹介する。

II 長野養護学校高等部分教室について

長野養護学校がある長野県は日本のほぼ中心に位置し、1998年に第18回オリンピック冬季競技大会が開催された地である。本報告で紹介するのは、長野養護学校朝陽教室（以下「朝陽教室」という）と長野養護学校すざか分教室（以下「すざか分教室」という）の取組であり、どちらも高等部の生徒のための分教室である。

朝陽教室は長野県の北部に位置する長野市に2010年4月に開室され、今年度で開室15年目を迎えている。また、すざか分教室は朝陽教室のある長野市の北東部に位置する須坂市に2016年開室し、今年度で開室9年目を迎えている。

III 朝陽教室の取組 ～力を合わせ みんなでつかもう ぼくらの夢！～

朝陽教室は知的障がいのある高校生のための学びの場であるが、長野盲学校の敷地内に設置されており、両校の生徒が積極的な交流活動を行っていることが大きな特色の一つである。

朝陽教室では、毎年10月に生徒会主体の学校祭を開催しており、学校祭では長野盲学校の生徒と一緒に合唱を行ったり、長野盲学校の生徒に和太鼓の演奏（写真1）を披露したりしている。和太鼓の演奏では、精一杯声を出すことや、仲間とタイミングを合わせることを目標に練習に励んでいる。また、生徒会本部の生徒たちは、長野盲学校の生徒たちに向けてクイズを使ったPR活動を企画して行っている。このほかに、学校祭のテーマである「力を合わせ みんなでつかもう ぼくらの夢！」をイメージした美術作品（写真2）の制作を提案し、朝陽教室生徒全員の協力で制作したものを展示している。

一方、生徒会本部以外の生徒は、学校祭に来てくださる方が気持ちよく過ごせるよう学校内および学校周辺地域の清掃活動を企画運営したり、学校祭当日に行われるカフェの準備をしたりしている。

学校祭テーマの中にある「夢」とは、それぞれが思う理想の自分像のことである。その「夢」に向かって、楽しさも苦しさも共有しながら学校祭を成功させようという生徒たちの願いが込められている。



IV すざか分教室の取組 ～みんなで協力して働き 楽しい夢の実現をしよう!!～

すざか分教室では、生徒一人ひとりの得意なことを生かして活躍できる場や、生徒全員が自分の役割を全うすることを大切にしている。そのため、大きな行事ごとに実行委員会を編成し、各行事の企画運営にかかわる経験を生徒全員ができる体制をとっている。すざか分教室の大きな行事は4月の「新入生歓迎会」、10月前半の「夢の実現」、10月後半の「近隣にある高校の学校祭への協力参加」、12月の「感謝祭」、3月の「3年生を送る会」の5つである。この5つの行事のそれぞれについて毎回実行委員会が組織され、3年間の高校生活のうち、誰もが1回は実行委員の活動（写真3）に取り組む。その取り組み方は生徒によって様々な形があり、人前で話すことを頑張れそうな生徒はその役割を、絵を描くことが得意な生徒はポスターを制作する役割をというように配慮されている。そのため、生徒一人ひとりが主体的に実行委員の活動に取り組むことができている。

今年度10月の「夢の実現」では、実行委員から全校生徒に対するアンケートが実施され、実現したいみんなの夢が、「ボウリングとホテルの昼食バイキングにでかける」ことに決定された。この夢の実現に向けて全員が販売活動をする仕組みとなっている。「夢の実現」とそれに向けた販売活動を合わせて、生徒たちが自分で考え、協議し、目標を定め、目標に向けて活動するという一連の自治活動となっている。

販売活動は1課（野菜生産）、2課（手工芸）、3課（食品加工）の3つの課に分かれて行われるがそれぞれに独立した組織ではなく、お互いに忙しい時期には臨機応変に協力しながら活動を進めることもあり、大きな一つの会社のような体制をとっている。

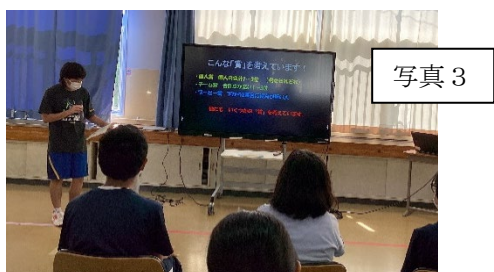
1課（野菜生産）では、毎週火曜日と金曜日に学校敷地内の無人販売所で販売活動（写真4）を行っている。学校周辺には一人暮らしの高齢者も多く、「買い物に便利で大変助かっている」とのお言葉をいただいている。そういったお客様の言葉や、開店前から並んで新鮮な野菜を買い求めてくださ

るお客様の姿から、生徒たちの働く意欲が促進され、暑い日や雨の日の作業も、「お客さんが待っているから」と言いながら畑での活動に取り組んでいる。また、無人販売のため、販売所にはお客様との交換ノートが置かれており、お客様と生徒たちとの交流の一助になっている。

2課（手工芸）では、一人一人が自分で色の組み合わせを考えながら世界に一つだけのシルクコサージュを製作（写真5）している。この作業で生徒たちが大切に考えているのは、お客様が喜んでくれるような製品づくりである。そのため、2課の課長は、「自分で考えた色の組み合わせの製品をお客様が購入してくださったときはとてもうれしい」と語った。また、自分たちで栽培した植物を使い、専門家に教えてもらいながら布を染める活動もしており、納得のいく色にすることを研究している。

3課（食品加工）（写真6）では、自分たちでクッキーの味のアイデアを出し、実際に試作や試食をして季節ごとの商品を作っている。生徒たちは積極的にアイデアを出し、また試食の際には自分のアイデアが通ることよりも、課としてお客様に喜んでもらえそうな味を相談、選択することが重要視されている。また、材料は積極的に1課の畑で採れた作物（かぼちゃやさつまいも）を使ったり、毎年10月後半に行われる学校祭へ協力参加している近隣の高校で作られた味噌を使ったりしている。

どの課の活動も生徒主体で進められるよう環境が整えられており、教師の指示が少なく、皆自分の役割を理解して活動に取り組んでいた。また、売れない製品があったり、課としての課題が出たりしたときは教師だけが悩むのではなく、どうしたら解決できるか生徒と一緒に考え、実行するようにしている。



■ 参考資料

- 1 (ウェブサイト) 文部科学省 学習指導要領 特別活動編

https://www.mext.go.jp/content/1407196_22_1_1_2.pdf